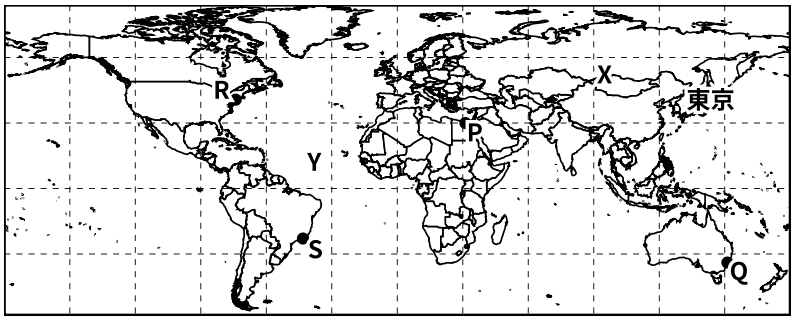
大問1 東京から世界の都市へ

Aさんは、東京から世界の都市へ向かう飛行機の旅について調べ、地図Ⅰに4つの都市P～Sを●で示した。地図Ⅰの緯線と経線は30度ごとにかかれている。各都市の標準時の基準となる経線は、東京が東経135度、Pが東経30度、Qが東経150度、Rが西経75度、Sが西経45度である（サマータイムは考えない）。



地図Ⅰ

(1) 地図Ⅰ中のXの大陸と、Yの海洋の名前をそれぞれ書きなさい。

X [　　]　Y [　　]

(2) 都市P～Sのうち、最も早く新年（1月1日）をむかえる都市を一つ選び、記号を書きなさい。 [　　]

(3) 都市Rの位置を緯度と経度で表したものとして最も適しているものを、ア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

ア　北緯40度・東経75度　　イ　南緯40度・西経75度
ウ　北緯40度・西経75度　　エ　北緯20度・西経45度

答 [　　]

(4) 東京を1月10日午後3時に出発した飛行機が、12時間かかって都市Pに着いた。着いたときの都市Pの日時を、午前・午後をつけて書きなさい。

[　月　日（午前・午後）　時]

(5) 次の文中のⓐ〔　〕、ⓑ〔　〕から適しているものをそれぞれ一つずつ選び、記号を書きなさい。

「地図Ⅰのように緯線と経線が直角に交わる地図では、赤道からはなれた高緯度の地域ほど、実際の面積よりⓐ〔ア 小さく　イ 大きく〕表される。また、東京から世界の都市への最短の道すじや、東京から見た方位を正しく表すのは、ⓑ〔ウ 東京を中心とした正距方位図法　エ メルカトル図法〕の地図である。」

ⓐ [　　]　ⓑ [　　]

(6) 日付変更線は、ほぼ180度の経線にそって引かれているが、陸地や島々をさけるように曲がっている。曲がっている理由を、「同じ国」「日付」の2語を用いて簡潔に書きなさい。

---

(7) 都市S・都市Qがある州の組み合わせとして正しいものを、ア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

ア　S 北アメリカ州・Q オセアニア州　　イ　S 南アメリカ州・Q アジア州
ウ　S 北アメリカ州・Q アジア州　　エ　S 南アメリカ州・Q オセアニア州

答 [　　]

解答（答えと短い解き方）

時差 入試① 東京から世界の都市へ

大問1　東京から世界の都市へ

(1)　X ユーラシア大陸　Y 大西洋

Xは六大陸で最も面積が大きい**ユーラシア大陸**、Yはヨーロッパ・アフリカと南北アメリカの間にある**大西洋**。

(2)　Q

新しい日は日付変更線のすぐ西側から始まる。日付変更線に最も近い東経150度のQが最も早く新年をむかえる。

(3)　ウ

Rは赤道より北（**北緯**）、本初子午線より西（**西経**）。およそ北緯40度・西経75度。

(4)　1月10日午後8時

経度の差105度で**7時間**。東京で着いた時刻は1月11日午前3時、都市Pはその7時間前の**1月10日午後8時**。

(5)　ⓐ イ　ⓑ ウ

ⓐ 高緯度ほど東西に引きのばされ、面積が**大きく**表される。ⓑ 中心からの距離と方位が正しいのは**正距方位図法**。

(6)　（解答例）同じ国の中で、日付がちがう地域ができないようにするため。

1つの国の中を通ると、その国の中で日付が2つになる。「同じ国」で「日付がちがう」ことを防ぐ内容があれば正解。

(7)　エ

Sは南アメリカ大陸の東岸なので**南アメリカ州**、Qはオーストラリア大陸の南東部なので**オセアニア州**。

くわしい解き方は創心館出版の攻略テキスト（別冊解答）に載っています。